

⑧ 輸液・シリンジポンプからルートや注射器を取り外す時、クレンメや三方活栓が開放されたままだとフリーフローとなり、過剰投与の危険があることが理解でき、安全に実施することができる			
⑨ シリンジポンプに注射器をセットする時、機械のあそびを取る ことができる			
⑩ 輸液・シリンジポンプからの輸液中の患者の状態を観察することができる			
⑪ 周囲の環境を整備し、患者に挨拶をしてから退室できる			
⑫ 必要時、実施内容を指導者等に報告できる			
⑬ 必要時、看護記録に記載できる			
コメント（今後へのアドバイスなど）			

## 技術指導例

### 活動・休息援助技術

#### ～車椅子による移送～

(複数のルートや酸素投与中、麻痺があるなど体動、移動に注意が必要な患者への援助)

#### 【到達目標】

安楽に配慮しながら安全に移送介助ができる

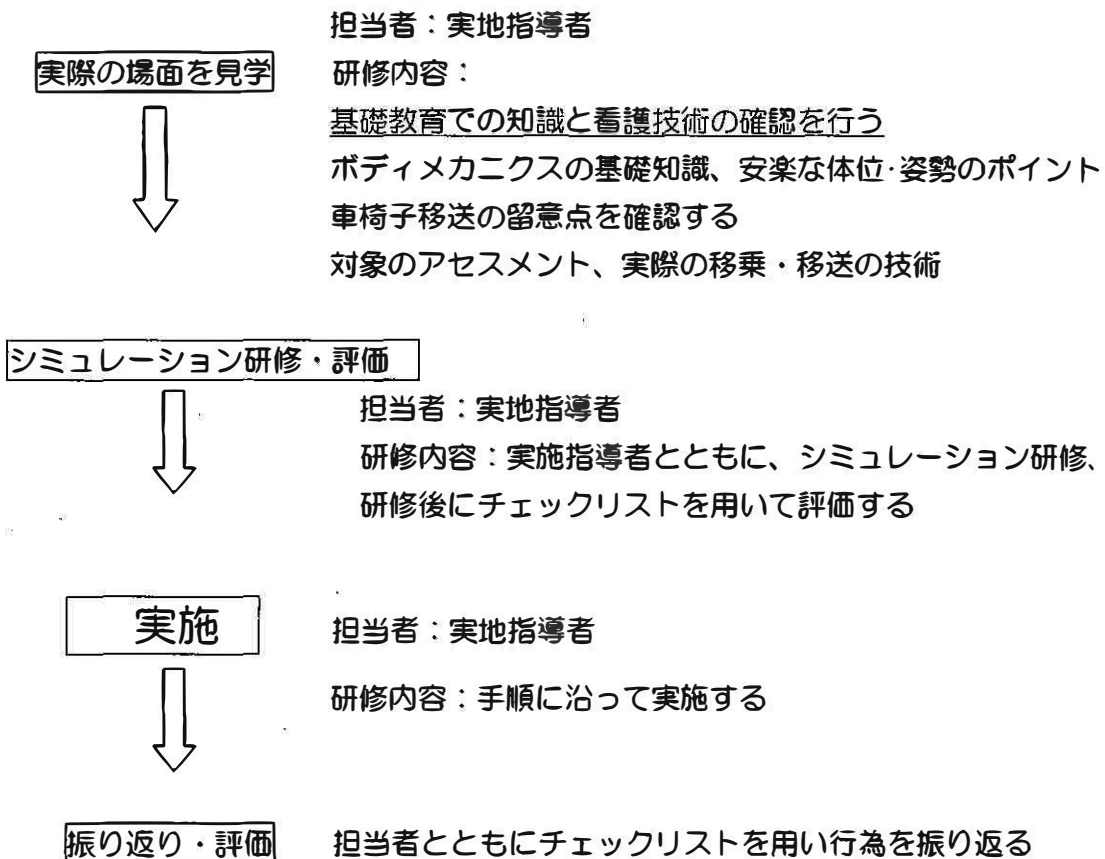
#### 【到達までの期間】

1ヶ月(軽症例)から3ヶ月(重症例)

#### 【看護技術を支える要素】

- ・必要物品の安全確認が出来る
- ・環境に配慮し、安全確保が出来る
- ・危険の予測が出来る
- ・患者及び家族へ、わかりやすい言葉を用いて説明出来る
- ・プライバシーに配慮出来る
- ・患者の状態をアセスメントし、個々の状況に応じた移乗介助ができる

#### 【研修方法】



<p>1. 準備</p> <p>① 車椅子を準備する        タイヤの空気は適切か、ブレーキは効くか、フットレストはきちんと動くか</p> <p>点滴ライン、酸素チューブ、バルンカテーターなどチューブ類がある場合の必要物品を準備する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酸素ポンベの準備・残量確認</li> <li>・点滴スタンド（車椅子付属）</li> <li>・廃液バックカバーなど</li> <li>・シリンジポンプ使用の場合は、バッテリーの確認</li> <li>・必要時フットレストカバーの準備</li> <li>・安楽枕やクッションの準備</li> <li>・必要時安全ベルトの準備</li> </ul> <p>2. 実施</p> <p>① 患者へ挨拶し、車椅子移乗と行き先を説明し承諾を得る</p> <p>② 患者の観察        必要時、バイタルサイン測定を行う</p> <p>③ 患者の身支度を整える</p> <p>④ 車椅子をベッドに対して 20～30 度の角度で置く</p> <p>⑤ フットレスを上げ、ブレーキをかける</p> <p>⑥ 患者を端坐位にする。端坐位の姿勢で患者の両足底をしっかりと床面につける        眩暈、気分不快の有無を確認する</p> <p>⑦ 患者に今後の動作の説明をする        たち上がること、軸足を中心に回転すること、車椅子に座ることを説明する</p>	<p>1. 準備</p> <p>○新人看護職員の学習準備状況の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディメカニクスの基礎知識</li> <li>・安楽な体位・姿勢のポイント</li> <li>・車椅子移乗の留意点を確認する</li> <li>・車椅子の操作方法</li> </ul> <p>○患者の状況（病状・身体可動性の障害の部位・程度など）を確認する        必要時、患者の状況に伴う移送の留意点を説明する</p> <p>○移乗・移送時の危険予知、予防の指導</p> <p>以上を確認後、準備を見守り、ベッドサイドへ同行する</p> <p>2. 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りながら、不十分な点をサポートする</li> <li>・患者の希望（カーティガンなど）や膝掛けの準備など移送目的にあった着衣の準備ができるよう指導        プライバシーの保護・患者の羞恥心への配慮の指導</li> <li>・車椅子の配置では、患者の身体機能（自立が可能か、麻痺の有無や程度）に応じて考慮する必要性について説明する</li> </ul> <p>麻痺のある患者は、健側に車椅子に寄せる</p> <p>輸液療法や酸素療法を受けている患者の介助の場合、点滴や酸素チューブに余裕をもたせておく。移乗前に、点滴や酸素ポンベにつなげる</p> <p>見守りながら、不十分な点をサポートする</p>
--	--